

♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

28年 6月 NO. 259

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		6月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
6月 18日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
6月 18日	土	おとなアート 14:00～16:00	身の回りの物をこすり出し、 それを自由に切って貼り合わせ 作品づくりをします。 小学生もどうぞおいで下さい。
6月 21日	火	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	<small>むねむらよりひさ</small> 宗村順久氏 (防災士、野外救急救命士など) から、防災の講話をお聞きます。
6月 22日	水	おはなしの会 10:00～11:30	「ぴっちぴっち、ちゃっぷちゃっぷ」を テーマに、かたつむりやカエル、 にじの絵本や画用紙シアター などがあります。
6月 24日	金	健康育児相談 11:00～12:00	園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)
6月 25日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験に おいで下さい。

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています  
ので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。



矢崎節夫童謡集  
「きらり きーん」より

なくなの かあ とそののみきあ  
らもががぼぜお けらぼぼあもお  
んとれれががぞ てにつっげちぞ  
で てててら い てててら  
いぼいいいふ くぼいいいい  
くくくくくい くくるいい  
が ない いが ない  
いいな ぼ な い ぼ な  
い が がいな がいな  
あ  
お  
ぞ  
ら  
い  
い  
な



わが国は東日本大震災後、日本ユニセフ協会を通して、国内はもちろん 16 の国々から子どもたちの緊急、復興支援をうけて 5 年になります。

今月は世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関であるユニセフ（国際連合児童基金）についてご紹介します。

#### \*ユニセフの名前の由来

第二次世界大戦が終わったあと、ヨーロッパなどには戦争のために親や家をなくして、厳しい暮らしをしなければならない子どもたちがたくさんいました。その子どもたちは、国籍に関係なく（国際）、すぐに（緊急）助けようと 1946 年にユニセフはつくられました。

ユニセフのはじめの名前は「国際連合国際児童緊急基金」、英語で

国際連合                      国際

United Nations    International

児童                      緊急                      基金

Children's    Emergency    Fund

といました。その頭文字をつなげた名前が、UNICEF(ユニセフ)です。

その後、ユニセフは緊急支援の仕事だけでなく、子どもの生存と健やかな発達を支える社会開発支援を行うようになりました。

そこで、1953 年に、名前を現在の「国際連合児童基金」（United Nations Children's Fund）と変えましたが、ユニセフという呼び名はとても親しまれていたため、そのまま使われているのです。

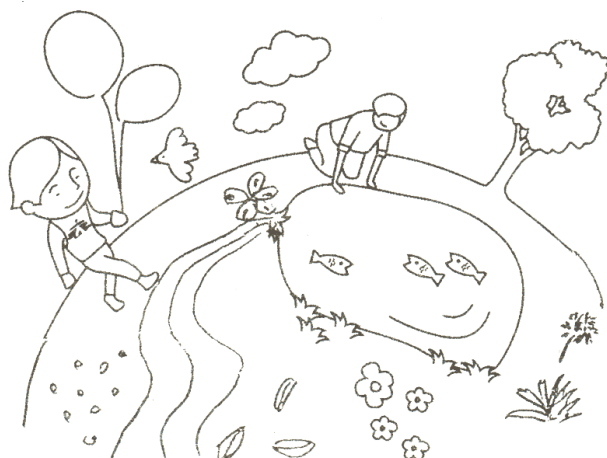
#### \*ユニセフのしくみ

ユニセフの本部はアメリカ合衆国のニューヨークにあります。また、支援のための物資を調達したり、保管したりする物資供給センターがデンマークの首都コペンハーゲンに、緊急支援用倉庫がドバイ（アラブ首長国連邦）、パナマ市（パナマ）、上海（中国）にあります。また、子どもに関わることがらを研究するセンターがイタリアのフィレンツェにあります。

2013 年現在、ユニセフは 150 以上の国と地域で支援活動をしています。

活動をおこなっている現場には、地域ごとに地域事務所、国事務所、連絡事務所などがあります。

また、36 の先進工業国・地域にユニセフ国内委員会（日本は公益財団法人日本ユニセフ協会）が置かれています。



## ユニセフの活動

### 1) 保健 (5歳の誕生日を迎えずに命を失ってしまう子どもたちは1年間に約660万人)

ソマリア 「子どもの命と成長を守る。ポリオ根絶」

「まだなのかなあ」ソマリアの村に住む4歳の女の子ラヤアちゃんは、ちょっと心配そうに戸口に座って何かを待っています。今日は経口ポリオワクチンの予防接種の日なのです。

ユニセフはWHOやその他のパートナー期間とともに、2018年までにポリオを根絶するという目標に向けて力を入れています。遠隔地に住んでいるために予防接種を受けることができない子どもたちにワクチンを届けるという課題に取り組み、遂にソマリアとナイジェリアでその感染を完全に食い止めることに成功しました。2014年8月以降、野生株によるポリオ感染はアフリカ全土で根絶されています。

ラヤアちゃんの番が来て、その口にポリオワクチンが水滴投与されました。ラヤアちゃんはお母さんからおでこにキスを受けてニコリと笑顔を見せました。遠くはなれた地域にあっても子どもたちにワクチンを届け、接種する努力が実を結び、ラヤアちゃんのように、全ての子どもたちがポリオの脅威にさらされなくなるまで、あともう少しです。



### 2) 栄養 (栄養が足りない0～4歳の世界の子どもたちは4人に1人)

自分たちの力で食べ物を手に入れ、栄養をとれるようにする

ユニセフは緊急の時には高カロリーの食料を届けたりしますが、いつも行っている活動では食べ物を配ることはしていません。食べ物は食べてしまうとなくなってしまう、長く続く栄養不良を改善することにはならないからです。ユニセフは、栄養についての知識を広める栄養指導員を育てたり、野菜の種などを配って育て方を伝えたりしています。自分たちに必要な栄養の知識を身につけて、栄養のある食べ物を自分たちで手に入れられるようにするためです。栄養のある食べ物をきちんと食べると、健康になれるからです。

### 3) 水と衛生 (安全できれいな水を使えない子どもや大人は約7億6800万人)

井戸や給水施設、トイレをつくる

ユニセフは安全な水を使えるように、そして子どもたちがつらい水くみをしなくてすむように、井戸や給水施設があれば、汚い水を飲んで病気になることや遠くまで水をくみに行くこともなくなり、子どもたちが遊んだり、学校に行ったりできるようになります。



#### 4) 教育 (小学校に行くことができない子どもたち約 5700 万人)

バングラデシュ 「子どもにやさしい学校」で楽しく学ぶ

バングラデシュのパラシュバリ郡にある小学校の教室。先生からカラフルで楽しそうな副読本が配られました。10歳のリマさんは早速友だちと一緒に熱心に読み始めます。この本では同じ年の子どもたちが様々な夢を語る様子が描かれています。読書を通じて子どもたちは、自分自身の将来やりたいことについて考えを深め、夢を構築していくことができるのです。

現在バングラデシュは教育において質の向上と教育の機会の均等性の問題に直面しています。この問題解決のためユニセフが支援して、特に教育面で立ち遅れが見られる地域で「子どもにやさしい学校」プロジェクトが進められています。このプロジェクトでは、十分に研修を受けた教員によって、注意深く選ばれた教材が提供され、子どもたちがお互いに助け合って学習していくグループワークを中心にした新しい教育スタイルが取り入れられています。風通しの良い教室、衛生的なトイレ、手洗い所といった健康的で安全な学校環境づくりも同時に進められ、特に女の子がより通いやすくすることで、出席率の向上と中退率の減少に大きく貢献しています。



#### 5) 子どもの保護 (働かなければならない子どもたちは約 1 億 6800 万人・5~17 歳)

南スーダン 未来を取り戻す子ども兵士

「妹も叔父も敵に殺され、ぼくは兵士になりました。それはつら体験でした。重たい武器装備を持たされて時には3日4日も歩き続けなければならなかったのです。」  
過酷な経験を話すジェームス・ジョンくん(仮名)、13歳。南スーダンの武装グループからユニセフによって解放された3千人の子ども兵士の一人です。自由の身となった子どもたちは社会復帰支援センターの保護の下、健康や栄養に関する必要なケアを受けます。同時に精神面のケアのため急務となるカウンセリングや心理社会的サポート体制が引かれました。また、ユニセフとパートナー団体は、家族の捜索や特定を通じて、子どもたちが再び徴用されることなく家族のもとに帰れるようにすると同時に、教育や職業訓練という将来に向けての社会復帰の支援も続けています。ジェームス・ジョンくんは力強く語ります「ぼくは学校に行っていなかった。今、本当に学校に行きたい。勉強をして卒業したら、周りのみんなを助けたいと思います。将来ぼくに子どもができたなら、その子たちを絶対に兵士にはさせません。」

\*当園はユニセフ・マンスリーリポート・プログラム(毎月任意の一定額を自動引き落としで募金するプログラム)に参加し、世界の子どもたちやユニセフ活動を支援しています。このたび、ユニセフ本部、日本ユニセフ協会より感謝状をいただきました。